

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

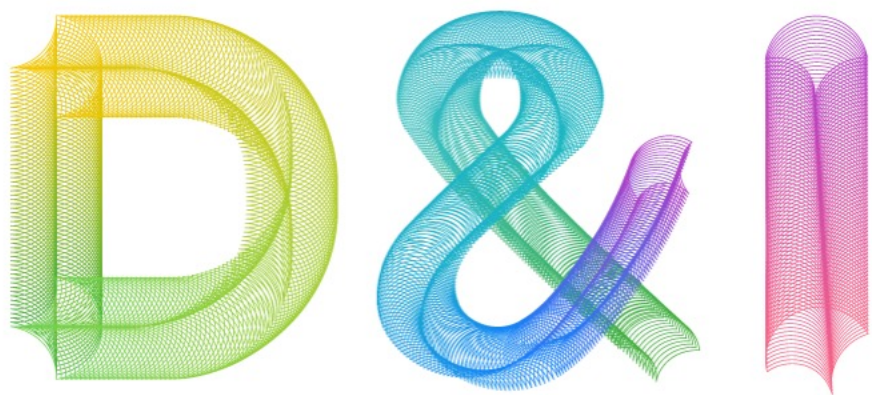
著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り再利用することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2022 伊藤たかね





UTokyo
Diversity&Inclusion

言語と ジェンダー

伊藤たかね

副学長（ダイバーシティ教育担当）

情報学環特任教授

まず、クイズ

- 英訳問題。空所部分を埋める英語を考えてください。
- 簡単なので、深く考えずにさっと頭の中で答えを出してください。

私が手を洗うと、教授も手を洗った

I washed my hands, and then the professor

_____.

問題は代名詞

- I washed my hands, and then the professor
washed his hands, too.
washed her hands, too.
決められない！
washed their hands, too.

無意識のバイアス

父親とその息子が乗っていた車が交通事故にあい、父親は即死、息子が大怪我をして救急病院に運び込まれた。

救急病院の担当外科医は、運び込まれた子供を見たときに

“Oh my god, this is my son!”

と叫んだ。

担当外科医と子供の関係は？

代名詞の選択にも同じ無意識のバイアスが反映されている

今日のロードマップ

- 無意識のバイアスと言語
 - 男女を表す言語表現と無意識のバイアス
 - 言語改革と意識の変化
 - 言語と言語使用者に対する無意識のバイアス
 - 言語に本質的な「優劣」はない
 - 言語の「優劣」は社会が作る
 - 社会の作った「優劣」が言語使用者の心に無意識のバイアスとして埋め込まれている
 - 「女ことば」の位置付け

無意識のバイアス： 自動翻訳にも

Google 翻訳



Google Translate interface showing a translation from Japanese to English. The source text is "その医師は手術室に入る前に手を洗った" (The doctor washed his hands before entering the operating room). The target text is "The doctor washed his hands before entering the operating room." The words "his hands" are circled in red, indicating a gender bias in the translation.

フィードバックを送信

Google Translate interface showing a translation from Japanese to English. The source text is "その看護師は手術室に入る前に手を洗った" (The nurse washed her hands before entering the operating room). The target text is "The nurse washed her hands before entering the operating room." The words "her hands" are circled in red, indicating a gender bias in the translation.

フィードバックを送信

Google翻訳 (<https://translate.google.co.jp/?hl=ja>)
画面は、2022年11月20日時点の翻訳結果

無意識のバイアス： 自動翻訳にも

Google 翻訳



テキスト ドキュメント ウェブサイト

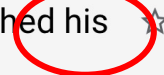
言語を検出する 日本語 スペイン語 英語

英語 日本語 韓国語

私が手を洗うと、教授も手を洗った



When I washed my hands, the professor washed his hands too.



Watashi ga te o arau to, kyōju mo te o aratta



16 / 5,000 あ



フィードバックを送信

Google翻訳 (<https://translate.google.co.jp/?hl=ja>)

画面は、2022年11月20日時点の翻訳結果

テキストデータにおける統計情報から、**professor**と**his**の方が、**professor**と**her**よりも、共起しやすいと判断

無意識のバイアス：IATテスト

• Implicit Association Test (IAT)

提示される刺激のカテゴリ分類課題

- 2つの異なる軸で区別する4つのカテゴリ
e.g. 性別（男性／女性）と、学問分野（自然科学／人文学）
刺激例：母、物理学、おじさん、少女、歴史学・・・
- 4つのカテゴリを、2つのキーに、2つずつ割り当てる
- 無意識のうちの関連付けがある概念を同じキーに割り当てる方が反応時間が短い
- 男性と自然科学、女性と人文科学を同じキーにした場合の方が逆の組み合わせよりも反応時間が短い

<https://implicit.harvard.edu/implicit/takeatest.html>

<https://implicit.harvard.edu/implicit/japan/>

言語にかかわる 無意識のバイアス

- マイノリティ を表す 言語表現に対するバイアス
- マイノリティ が使う 言語（変種）* に対するバイアス

* 言語変種：地域、社会階層、年齢、性別等によって同一言語内で相違をもつ変種、方言

マイノリティを表す言語表現 に対するバイアス

- 女性を表す表現と、家庭に関連する物事を表す表現との間の関連付け
- 男女を表す表現と、学問分野との関連付け

Nosek et al. (2002)

→ 言語自体の問題というよりは、社会における偏りと、それに基づいて人がもつバイアスを、言語が反映していると理解できる

→ ただし、言語表現が偏りを「固定化」したり「増幅」したりするリスクには注意が必要

→ AIや自動翻訳は過去の言語表現に固定化されたバイアスを（社会が変化しても）学び続ける可能性がある

なぜ（代）名詞の性が問題か

- 女性は、自分が「he」を用いて言及されることはない。



“Every professor is required to submit his report on…”

“Every child needs to know that he is loved.”

女性は、自分もここに含まれていると思うだろうか？

- 代名詞だけではない

“All men are created equal.” （合衆国独立宣言）

言語の改革と意識の変化

- 単数のthey

Every professor is required to submit their ….

?The professor washed their hands.

- 「人間」一般の意味のmanを避ける

All humans are created equal.

- 職業名等の変更

fireman → firefighter, policeman → police officer

chairman → chair, spokesman → spokesperson

マイノリティが使う言語（変種）に対するバイアス

- 特定の言語（変種）を劣ったものであるとするバイアス
- 特定の言語（変種）の使用者を劣ったものであるとするバイアス

言語（変種）に本質的な優劣 はない

どのような言語（変種）も、それぞれ精緻な文法体系をもつ

地域方言・社会方言などの言語変種は、部分的に異なる文法をもつ変種

たとえば、African American English (AAE)*は、かつては誤った文法をもつ劣った言語変種とみなされていた

↓

詳細な文法研究により、標準英語とは異なるが、同様に複雑で精緻な文法体系をもつことがわかっている

* AAE：主に都市部のアフリカ系アメリカ人が多く用いるアメリカ英語の変種。以前はBlack Englishと呼ばれていた。

African American English (AAE) と Standard American English (SAE)

<beの脱落>

AAEのbeの脱落とSAEのbe動詞の弱化は同じ規則

a. He nice.; They mine.; She goona do it.

b. He as nice as he say he is.; ^{NG}He as nice as he say he.

c. How beautiful you are.; ^{NG}How beautiful you.

cf. SAE: ^{NG}He's as nice as he says he's.; ^{NG}How beautiful you're.

(例文は Fromkin et al. 2014 *An introduction to language*. 10th ed, p. 294より改変)

<2種類の進行形>

AAEでSAEでは表せない2種類の進行形の区別が表せる

d. He workin'. (=he is working right now)

e. He be workin'. (=he is working steadily)

(Stewart (1967) Sociolinguistic factors in the history of American negro dialects. *Florida FL Reporter* 5(2))

社会の権力構造が 言語の「優劣」を作る

- SAEの文法が「正しい」とすれば、AAEは文法上の誤りが多い言語=劣った言語
- 実際には、AAEはSAEとは異なる精緻な文法体系をもつ

→ マジョリティが「当然」と考えるものが、全ての人にとって当然であるべきだとする思い込みから、「間違った文法」、「劣った言語」という考えが生まれる

- 学校、裁判所等の公の場における弱者の言語の使用の禁止
- 学校等における「誤り」としての矯正、からかい
- 「劣った」言語としてのスティグマ

言語変種に対する 無意識のバイアス

- 言語変種を用いたIAT

- -ingの発音（-ing [ɪŋ] / -in' [ɪn]）による-ing形
（feeling/feelin', looking/lookin' moving/movin'...）
（-inは、砕けた文体、下層階級で多く用いられる（Labov 1966））
- 賢さ（賢い／愚かな）の単語のカテゴリ判断
（e.g. smart, bright, genius...vs. dumb, slow, ignorant...）

結果： **-ingと賢さ, -in'と愚かさ**とを同じキーにした場合の方が、
逆の組み合わせよりも反応時間が短い
(Loudermilk 2015)

→ 言語変種（を用いる人）と、賢さ・愚かさとを
結びつける無意識のバイアスがある

言語変種に対する 無意識のバイアス

- 英国の「南部英語」と「北部英語」
 - ロンドンなど政治経済の中心は南部英語の話される地域
 - 南部英語が標準的なイギリス英語とされる
 - 北部英語の話者を対象とするIAT実験：
南部英語が北部英語よりも肯定的に捉えられている
(McKenzie & Carrie 2018)
- アメリカ英語と「外国語訛り」
 - 米国の大学生を対象とするIAT実験
 - アメリカ英語の発音と外国語訛りのある英語発音
前者の方が後者よりも肯定的に捉えられている
(Pantos & Perkins 2012)

ここで、質問

- 「劣っている」とみなされる言語変種の話者が、社会で成功したいとしたら、どのような方策をとるだろうか？

社会における「成功」のための 二言語（二変種）併用

- 「権力者」の言語を使用することによって社会における成功を目指す
 - 「正しい英語」の使用
 - 「共通語・標準語」の使用

もう一つクイズ

- 上司が、部下に、翌日の会議の準備について言うとしたら、次の言い方は適切だと思いますか。
 - a. 資料、今日中に作っとけよ。
 - b. 資料、今日中に作っといてよ。
 - c. 資料、今日中に作っといてね。
 - d. 資料、今日中に作っておいてください。
- 上司が女性だったら、どうでしょうか。

「女ことば」

- 女性の言語使用の方が、一般に「正規的」「丁寧」
e.g. -ingは女性性と、-in'は男性性と結びつけられる
- 日本語は、男女による言葉の違いが大きい
- 日本の女ことばは「命令、指示」の用法をもたない
(平田2012)

→ 「女ことば」は、どのような状況に適したことばだろうか？

→ 「女ことば」は、どのような概念と、無意識のバイアスで結び付けられているだろうか？

「できる」女性は「好かれ」ない

「評価」実験

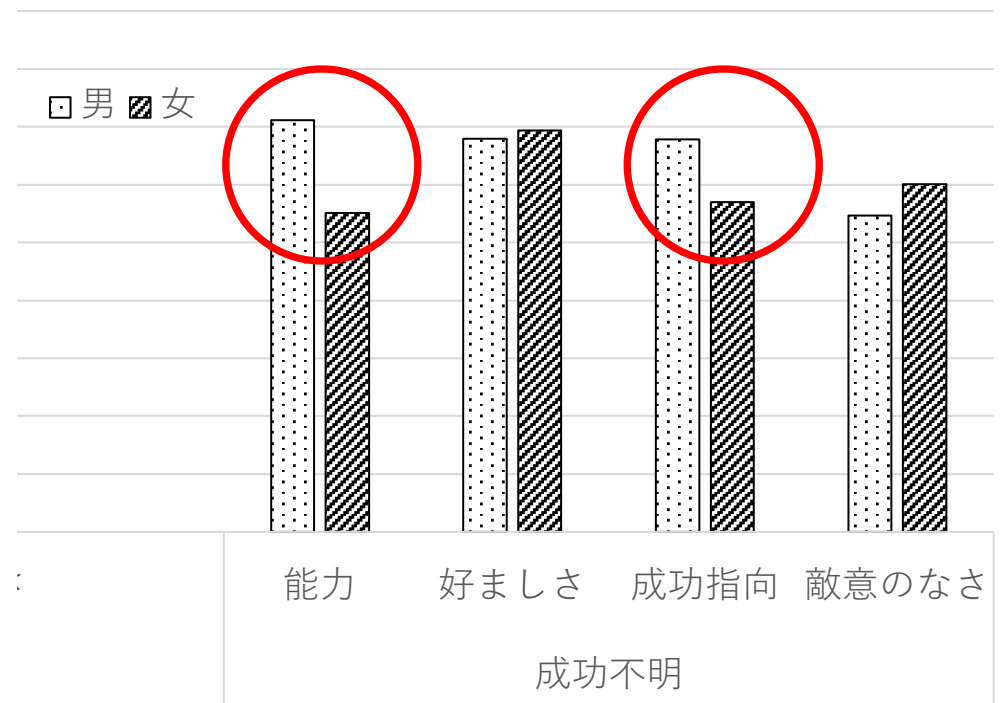
- 「男性中心」の職場（航空機製造会社の販売部門、80%男性）を想定
- 「成功した」状況と、「成功するかどうかわからない」状況
- 人事的・背景的情報を見て男性・女性の従業員を4つの軸での評価

(9点満点)

- 「能力」 competent/incompetent, productive/unproductive, effective/ineffective ...
- 「好ましさ」 likable/not likable,
How much do you think you would like this individual?
very much / not at all
- 「成功指向」 ambitious/unambitious, active/passive, decisive/indecisive,
assertive/unassertive...
- 「敵意のなさ」 not abrasive/abrasive, not conniving/conniving,
not manipulative/manipulative, not selfish/selfish...

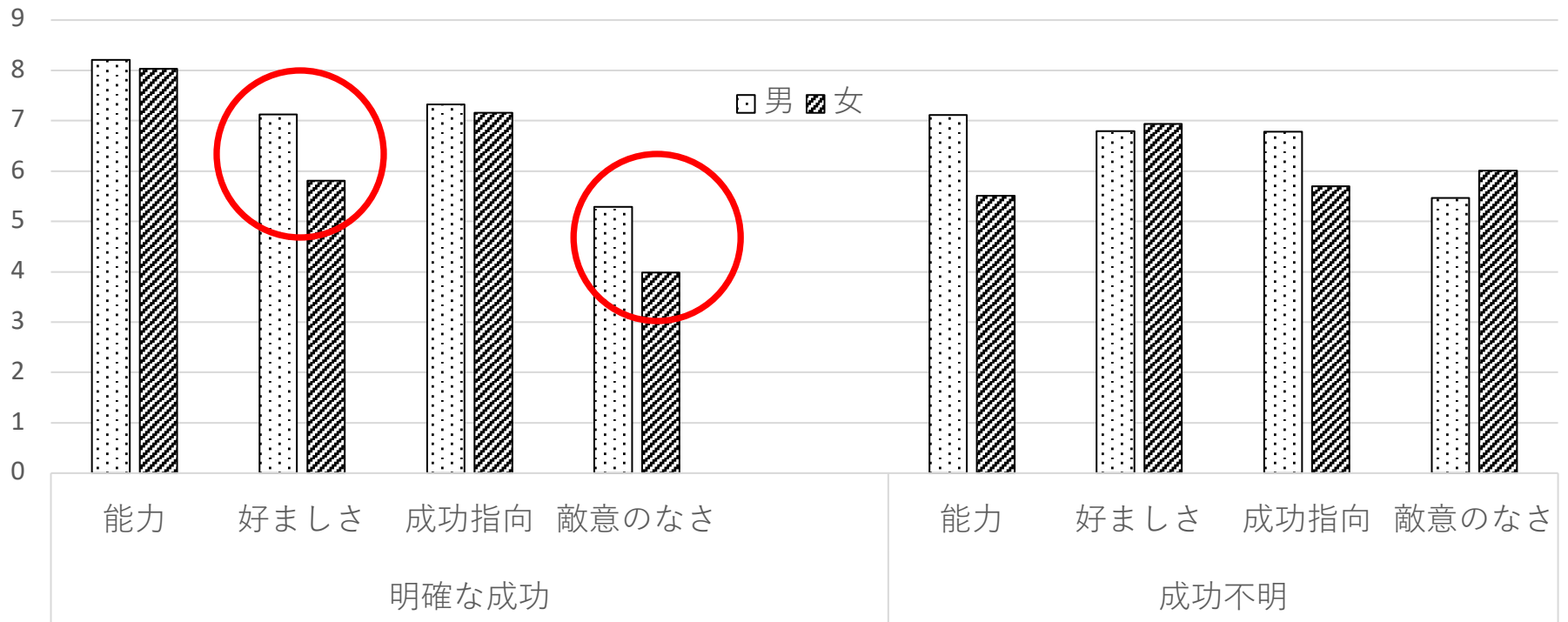
Heilman et al. (2004) Penalties for success: Reactions to women who succeed at male gender-typed tasks. *Journal of Applied Psychology* 89(3), 416-427

成功するかどうかわからない場合：
同じ書類でも男性の方が有能と評価
される



Heilman et al. (2004) Penalties for success: Reactions to women who succeeded at male gender-typed tasks. *Journal of Applied Psychology* 89(3), p. 420 Table 2に従って作成

成功した状況の場合：女性は「能力」と「好ましさ」のdouble-bind



Heilman et al. (2004) Penalties for success: Reactions to women who succeed at male gender-typed tasks. *Journal of Applied Psychology* 89(3), p. 420 Table 2に従って作成

ここまでをまとめると：

- 言語に本質的な優劣はない
- 社会の権力構造により言語の「優劣」が作られる
- その「優劣」は、その言語を用いる人の性質（たとえば、賢さ・愚かさ）に無意識のバイアスで結びつけられている
- 「できる」女性は「好かれ」ない

<問い>

- 権力者の言語を用いること（二言語・二変種併用）は社会での成功を可能にするか？
- 日本語の女ことばはどのような場で用いるのに適しているか？
- 日本語の女ことばは無意識のバイアスでどのような概念と結び付けられているだろうか？

グループ・ディスカッション

- 日本語の女ことばは無意識のバイアスでどのような概念と結び付けられているだろうか？
- それを踏まえて、二変種（男ことばと女ことば）の併用・使い分けは、日本の女性の社会での成功を助ける要素になるだろうか
 - YES: どのように二つの変種を使い分ける？
 - NO: ことばが作るハードルを回避する方法は？

女性（あるいはマイノリティ）は、 二言語併用で「成功」できるか？

- 命令・指示する文型を持たない「女ことば」
「女ことば」で依頼すると能力を疑われる／信頼されない
「男ことば」で指示すると嫌われる／信頼されない

→ 「年齢や性差を超えた、対等な「対話」のための日本語を作り出していかなければなりません。」

(平田オリザ(2012) 一劇作家から見た日本語教育の課題と展望『ドラマチック日本語コミュニケーション：「演劇で学ぶ日本語」リソースブック』野呂博子・平田オリザ・川口義一・橋本慎吾（編）pp. 90.ココ出版.)

今後の検討材料

- ジェンダーにかかわる言語改革
神崎高明(2022)『英語のジェンダー』開拓社（開拓社言語文化選書）
- 言語の「優劣」
Labov, William (1969) The logic of nonstandard English, *Georgetown Monographs on Language and Linguistics*, 22: 1-31. [Reprinted in Frederick Williams (ed.) (1970) *Language and poverty: Perspectives on a theme*. Academic Press.]
- 「女ことば」の成立過程、変遷
中村桃子(2021)『「自分らしさ」と日本語』筑摩書房（ちくまプリマー新書）
- 日本語と女性の立ち位置
寿岳章子(1979)『日本語と女』岩波書店（岩波新書）

- Fromkin, Victoria, Robert Rodman and Nina Hyams (2014) *An introduction to language*. 10th ed. Wadsworth.
- Greenwald, Anthony G., Debbie E. McGhee, and Jordan L. K. Schwartz (1998) Measuring individual differences in implicit cognition: The implicit association test, *Journal of Personality and Social Psychology* 74(6): 1464-1480.
- 平田オリザ(2012) 一劇作家から見た日本語教育の課題と展望『ドラマチック日本語コミュニケーション: 「演劇で学ぶ日本語」リソースブック』野呂博子・平田オリザ・川口義一・橋本慎吾 (編) pp. 78-101. ココ出版.
- Labov, William (1966) *The social stratification of English in New York City*. Center for Applied Linguistics.
- Loudermilk, Brandon C. (2015) Implicit attitudes and the perception of sociolinguistic variation, *Responses to language varieties: Variability, processes and outcomes*. Alexei Prihodkine and Dennis R. Preston (eds.), pp. 137-156. Benjamins.
- McKenzie, Robert M., and Erin Carrie (2018) Implicit-explicit attitudinal discrepancy and the investigation of language attitude change in progress. *Journal of Multilingual and Multicultural Development* 39(9): 830-844
- Nosek, Brian A., Mahzarin R. Banaji, and Anthony G. Greenwald (2002) Harvesting implicit group attitudes and beliefs from a demonstration web site, *Group Dynamics: Theory, Research and Practice* 6(1): 101-115.
- Pantos, Andrew J., and Andrew W. Perkins (2012) Measuring implicit and explicit attitudes toward foreign accented speech, *Journal of Language and Social Psychology* 32(1): 3-20.
- Stewart, William A. (1967) Sociolinguistic factors in the history of American negro dialects. *Florida FL Reporter* 5(2))